

日吉台地下壕保存の会

会 報

第5号

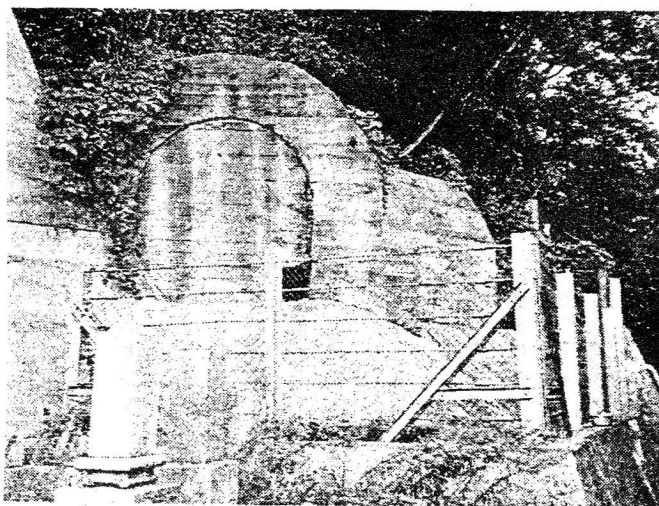
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 044-62-1282 (寺田貞治方)



Y字型の地下壕の入口

(入口は現在塞がれている)

目 次

◎ 再び総会を迎える	
に当たって	1
◎ 第8回幹事会報告	2
◎ 第2回運営委員会報告	3
◎ 会費納入のお願い	3
◎ 地下壕見学の感想	4
◎ 第2回総会のお知らせ	6
◎ 編集後記	6

再び総会を迎えるに
当たって

会長 永戸 多喜雄

日吉台の旧連合艦隊地下壕の保存に、それ
ぞれの立場から意義を認めた市民と慶應義塾
教職員有志、さらに太平洋戦争末期に地下壕
に直接係わりを持った人々が、一同に会して
保存会を結成してから早くも一年が経過し、
近く第二会総会を迎えることになった。

その間、当初約束された会報の発行は順調
に進み、地下壕見学会も回数を重ね、自治体
との協力の下にプロジェクト・チームの作業
も着実に進展し、相次ぐ聞き取り調査によっ
て、従来は霞に包まれていた多くの事柄が、
はっきりした姿を現し始めている。地下壕の
難工事に投入された朝鮮の人々の労働力の問
題などは、とりわけ重要な事柄の一つであろ
う。但し、この問題に関しては、未だ有力な
資料に乏しく、引続き精力的な調査が必要で
あると考えられる。

当面の経済活動に没頭する余り、世界を包
み込むようとしている巨大な変革のうねりさえ
他所事のようにしか受け取られていないかに
見える今日の日本で、日吉台地下壕の保存と
いう地味な目標を掲げているこの会の存在は、
かけがえのない光源のようなものではないだ
ろうか。地下壕は好奇心の対象でも、単なる
戦争の遺物でもなく、君達は何をしているの
だと絶えず問いかけてくる、歴史の証人に他
ならないからである。

第二一回

運営委員会員△云出報出日

三月二日に藤山記念館中会議室で開かれた。

○報告事項

事務局長より

①会員数 2440名 (3月1日現在)、団体会員 1組、賛助会員 4名、②会計：

収入 324460円 支出

128421円、残額

196039円、③1月17

日：幹事会の後、会費五千元

で新年会を日吉本町の鮎辰で

行った。④1月18日：日吉

台小学校地下壕見学会参加者

よりカンパ1800円。⑤1

月22日：区役所人事移動

吉久保区政推進課長が市総務

局に転出、代わりに佐藤栄一

氏がこられた。地下壕保存に

ついては、今年の8月ごろま

でに調査をまとめ、市に答申

する予定とのことである。そ

れまでに地主の方にもあつて

話を聞く予定であるとのこと。

⑥2月8日：緑区中学校社会

科の教員が、午後3時より日吉台地下壕を見学した。10名参加。その時保存会に5千円カンパを頂いた。⑦2月11日：茂呂先生より「海軍施設本部築城施設極秘資料」昭和160年、30冊、五万円、金文堂書房のカタログに載ったと聞いて問い合わせたが、去年発表と同時にすぐ売れたとのことであった。⑧2月17日：兵庫県の鄭鴻永氏より、兵庫県の地下壕の資料を頂いた。西宮市では、六甲山麓の地下軍需工跡後を歴史資料として現状保存の可能性を探るため、1989年度予算案に調査費1500万円を計上し、本格的な調査に乗り出している。

○議事

①第2回総会について審議。

*日時：4月7日

*場所：藤山記念館大会議室

*総会の進め方：次第など

*総会の準備：

3月中旬に会報第5号と共に総会案内状を送る。

②1989年度活動報告書。

決算報告書、1990年度予算案、規約の1部改正等について審議。③第5号の会報について：3月中旬に発行。④総会後に運営委員会を開く。⑤委員会後の動き：3月12日に慶應義塾の日吉事務長の

岡本氏、管財部長の金田氏ら7人で、地下壕を見学した。また港北区の職員が3月19、20日に兵庫県西宮市の地下壕保存の取り組みについて視察の予定。

「お願い」

一九九〇年度

△云費員納入

保存の会の活動は、皆さんの納めて頂く会費とカンパで行っています。これからますます活動資金が必要になると思いますので、現金または為替で御納入下さいますようお願い致します。

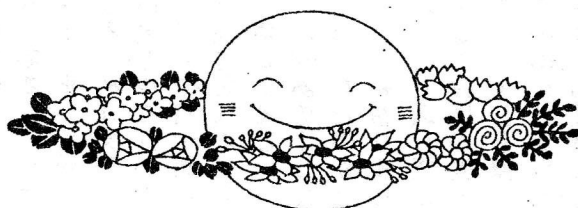
会費は 一口 一 千 円

以上で、何口でも結構です。

郵便振込の番号は

横浜 2162997

です。



地下壕見学

の感想

横浜市教職員組合

日吉台小学校分会

日吉台小学校では、組合の教育活動の一環として平和教育を取り上げて二年目になります。この組合の教育活動には、年二回、十月と二月に支部単位での報告集会が持たれますが、本分会でも十月の報告集会で、つたない実践報告をしました。その時に、中川

中学校の先生が、大聖院の防空壕に入った感想を話されました。私たちの学区にある防空壕に他の学校の先生が入ってみられたということで、少々驚きましたが、驚きはここに留まらず「日吉台地下壕保存の会」があるという意外な事実を知ることになりました。

分会内では、地下壕の存在を知っている人、転任して日が浅いために全く知らない人、様々でしたが、地下壕の中は

「ジープが走れるほど大きかった」ということは知っていても、実際に入ってみたという人は一人もいませんでした。そういう中で、三年の社会科で地域の事を学習させるんだから、見学できるのなら見学してみたいという声があがり、日吉台中学校の神谷先生に教えて頂いた保存の会の事務局長さんにお世話になることになりました。

事務局長の寺田先生は、新年早々の忙しい中、一月三日の土曜の午後、本校まで足を運んで下さいました。たくさん資料をもとに、一時間余にわたる講義をして下さり、それからみんなでワイワイと地下壕の見学に出かけました。

私たちの分会では、この見学の二週間後に国語の平和教育教材を主とする父母懇談会を計画していたのですが、先生の講義、地下壕の見学が大変有意義であったことは言うまでもありません。父母懇談会では、寺田先生からお借りした「NHKのわが町・この

人」のビデオを終わりの方で視聴させて頂きました。父母懇談会開催に当たってはPTAに働きかけチラシを全校に配布しましたが、組合主催となるためか父母の集まりは五四名と少なかったです。しかし、戦後四十数年を経ている現在でもなお、あのような地下壕があるということに驚き、なぜあのような大きなものが作られたのかと疑問を持たれる方もありました。

本分会で取り組んできた平和教育の成果が微力ではありますが、子ども達の中にも、父母の中にも育ちつつあることを私たちは嬉しく思っています。そして、何よりも、私たち地震の学習が深められ、教師として子ども達に語りかけられる多くのものをえたことを感謝しています。本当にお世話になりました。

以下は、私たちの地下壕見学の感想です。

＊学校のすぐ近くにあんな大規模な地下壕があるとは驚きです。歴史教材としても充分使えると思うし、児童には難

しければ教師と親で話題に出来ると思います。地域の問題と言うことで保存に協力し合えるのではないのでしょうか。

話しに聞くだけでなく、まさに百聞は一見にしかずでした。

＊日吉台にきて三年目になるのに学区の歴史については何も知らなかった。慶應のキャンパスの中に大きな地下壕があることを知って驚き、一度見学したいと思っていたことが実現した。寺田先生の親切な説明で、地下壕のことがとてもよくわかった。海軍がキヤンパスを使用することにより、学生の追われる日々があったこと、また、この日吉台小の子ども達も海軍の賞罰に関する部（功績調査部）が入ることにより追われて近くの寺へ集団疎開させられたことを知った。子どもが主人公であるはずの学校が奪われて入った。何ということか。寺田先生のおっしゃった平和について考える平和資料館が建ったらどんなに素晴らしいだろう。

*親切で詳しい説明をして頂いたので、とてもよくわかりました。日吉台小につとめて六年になりますが、地下壕の存在さえ知りませんでしたので、大変興味深く見ました。とにかく驚きました。歴史の遺産としておとなの力で残しておく価値があると思います。地域の戦争の歴史を残すことは、逆に平和を考えようとする大事な材料になるのではないのでしょうか。

*日吉に地下壕があることだけで、まず驚きましたが、お話や地図だけでは、余りその大きさを実感していませんでした。自分が入ってみて、初めてその広さと内部の機能がわかり、当時の軍の力とそれを支えていた一般の人々や朝鮮の人々のことが、少し理解できたように思います。本当に貴重な体験をさせて頂きました。



*大変よい体験をさせて頂いたと思います。まだまだ気付かないところに、歴史を伝える重要な資料があるような気がするとして興味を持ちました。見学前にお話を聞いてよかったですと思います。想像していたよりも大規模でびっくりすると同時に、この地下壕を掘るために強制労働させられた人たちの当時の様子を思い浮かべると胸が痛む思いでした。

*長靴の用意がなかったために、下が乾いた場所だけ見学し、その後入口で待っていました。入口で待っているとき、地下壕の中から見学の方々の声が少しも聞こえず、吸い込まれるような静寂から、地下壕の奥行きの深さを感じました。こんなにじめつとした暗い地下壕で人間が過ごすというところ、そして、この地下壕のために、周辺の爆撃がひどかったこと、この地下壕を作ったため多くの苦しい思いをした人がいたことなど、考えると、戦争とは人間らしくいきる喜びを剥奪するものだと思ふようになりました。

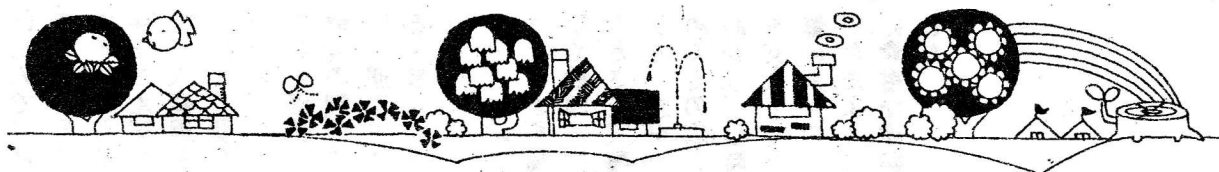
*すぐ身近なところに地下壕があることを初めて知り、そして自分の目で確かめることができ、大変よい勉強になった。こんなにも長くて頑丈な地下壕を短期間に作り上げたエネルギー・・・戦争のために、信じられない作業をやったり、させたりする凄さに恐怖を感じた。

*地下壕のトンネルは、まるで四十年以上もの昔に続くタイムトンネルでした。少しカビ臭い空気の中にと、その昔、その地下壕で寝ていた人の吐息や歩く足音が聞こえてきそうで、確かにそこに歴史があったという実感がわいてきました。でも二度とあのような所で生活する日が来ないようなと思っていました。

*現在、見学して何かタイムスリップしたような気がしました。当時の人々が真剣になつて、その中で会議などが行われたということですが、地下の暗い湿った中で不自由を感じながらもやられたことが、とても信じられないように思いました。当時、それほど

緊迫していたのでしょうか。改めて、今の子ども達を戦場にいかせることのないように、世界平和を願ってやみません。寺田先生の説明が大変くわしくよくわかった。説明の後の見学だったので、興味深かった。貴重な体験だった。





「お知らせ」

第二一回

総会

〇日時

4月7日(土)

午後3時より

(受付は午後2時50分より)

〇場所

慶應大学藤山記念館

大会議室

〇総会の進め方

一、戦時中の映画

「戦ふ小国民」の上映など

二、開会の辞

三、会長挨拶

四、議事

①議長選出

②1989年度活動報告

③1989年度会計報告

④1989年会計監査報告

⑤②③④の報告について

質疑応答および承認

⑥規約の1部改正について

提案の説明と質疑応答並

びに承認

⑦1990年度運営委員・

会計監査の選出と承認

⑧新会長挨拶

⑨1990年度活動方針案

説明

⑩1990年度予算案説明

⑪⑨⑩の案について

質疑応答および承認

⑫議長解任

五、その他

六、閉会の辞

〇お願い

総会には、多数の方々のご参加をお願い致します。

映画「戦う小国民」は戦時

中の小学校の教育がどのようなものであったか、余す所なく描かれています。是非お見

落としのない様お願い致します。

編集後記

〇会結成から1年が経とうとしています。夢中で、手探りで、とにかく切り抜けてきました。

〇それなりに私達の活動の成果はあったのではないのでしょうか。

〇新聞・テレビ・見学会を通して、この1年間かなりPRされたのではないのでしょうか。〇日吉台小学校や中学校では、地域の歴史教育または平和教育の一貫として、地下壕を考えようとの動きが出ています。〇見学会の感想文も順調に寄せて頂き、事務局としては大助かりでした。ご協力有難うございました。

〇区役所のプロジェクトチームでは、8月ごろまでに保存に向けての基礎資料を市に提出する予定です。(第4号の記事で3月までに提出とあるのは訂正させて頂きます)

〇4月7日の総会は、是非成功させたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。